

国語表現	報告課題第二回			
	解説			
		年		
			組	
				氏名

知っておきたいアナウンス用語

アクセント (accent) 強弱

イントネーション (intonation) 抑揚

ポーズ (pause) 間

プロミネンス (prominence) 強調

テンポ (tempo) 速度

腹式呼吸の練習

二人一組みになって、一人があお向けになり腹式呼吸を行う。丹田（へその少し下のところ）に意識を集中し、ゆっくりと長く呼吸する。もう一人は、腹部の上下を確認する。胸部や肩が上下する場合は、指摘し、押さえてやる。（交互に行う）

その際の呼吸を「S」音で行うとよい。「す」ではなく、軽く口を閉じ、前歯の裏に舌を軽く当てる感じで、おなかから息を吐くときに自然に出る音。声帯を使わずにできる。

敬語の正しい使い方

相手や話題の人物を立てるときや目上の人に対するときには謙譲語を使わない。

■例 2

× 先生は愛知万博に参りましたか？

○ 先生は愛知万博にいらっしゃいましたか？

自分の身内や関係者には尊敬語を使わない。

■例 2

× この絵は私のお母さんもご覧になりました。

○ この絵は私の母も拝見しました。

一人称が主語の場合、謙譲語を使い、二人称が主語の場合、尊敬語を使う。

■例 2

私が参加いたします。

あなたは参加なさいますか。

敬語の役割

「言う」も「おっしゃる」も「申す」も同じことを述べているが、使い方によっては礼を失し、人間関係を損ねることすらある。そういう意味でも敬語は言語生活の重要な位置を占めているといえる。また、「質問はございますか」と「質問はございませんか」では、後者のほうが丁重に感じるように、同じような敬語を含んだ表現でも、より適切な用法がある。さまざまな用法を学ぶことで敬語の適切な使用を心がけよう。

これらを踏まえて報告課題に取り組んでいきましょう。